小田野直武・佐竹義躬生誕260年記念企画展

■会期:10月3日(土)～11月8日(日)
(会期中は無休)
■開館時間:午前9時～午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
■会場:角館町平福記念美術館
■入館料:大人300円　小人200円
＊20名より団体割引有り
■出品予定作品:秋田蘭画作品　約25点

佐竹曙山
「松に椿に文鳥図」

佐竹曙山　秋田藩第7代藩主佐竹義明(よしはる)の長子として、江戸浜町の藩邸に生まれる。幼名を秀丸、初名を義直といい、後に義敦と改める。次郎と称し、孔雲、曙山と号した。宝暦8年(1758年)父の死後11歳で第8代藩主となり、明和2年(1765年)に18歳で初めて秋田に入った。政務のかたわら学芸諸般にも関心をよせ、とりわけ絵事には熱心であった。はじめ狩野派を学んだが、これにとらわれることなく実物に即した精緻な写生図も残している。安永2年(1773年)秋田に招かれた源内より、直武がはじめて西洋画法を伝授されると、直武を介してそれを学び、さらに直武に本格的に研究させるため、銅山方産物他所取次役として江戸詰を命じた。安永3年(1774年)4月から翌年6月にかけて、参勤のため江戸に上ったが、その間直武とともに西洋画法による制作と研究にはげんだ。安永7年(1778年)4月、前年暮れに帰郷した直武に秋田本城詰めを命じ、9月には彼の協力のもとで、日本で初の西洋画論とされる「画法綱領」「画図理解」を記述している。同年10月、直武を従え再び江戸に参勤したが、翌安永8年(1779年)、直武の師平賀源内が不祥事から牢死したのと同時期に、原因は不明ながら突然直武に遠慮を申しつけ帰国させた。翌年直武が亡くなると、それ以降あまり筆をとることなく、天明5年(1785年)江戸藩邸にて亡くなった。

■問合せ:角館町平福記念美術館　TEL(54)3888

※企画展開催中「殁後65年　小野崎大凌展」　■会期:7月26日まで

仙北市民会館7月行事のお知らせ

9日　「わくわく 和ライブ」

平成21年度仙北市民会館自主事業第1弾は学校芸術鑑賞です。

生保内小学校、神代小学校の生徒による鑑賞会ですが、今回は特別に一般の方も鑑賞可能です。

地元の誇る劇団わらび座の和楽器グループ「響」による「わくわく和ライブ」。午後1時開場、午後1時30分開演。

入場料 800円。当日窓口でお支払いください。

■問合せ:仙北市民会館　TEL(43)3143

ホール展示のお知らせ
「高井有一をめぐる文学　そしてふるさと角館」

高井有一(新潮社記念文学館 名誉館長)
1932年東京に生まれる。本名田口哲郎。
祖父田口掬汀は小説家、父田口省吾は画家。
疎開先である祖父の住む角館で母死去。
早稲田大学卒業後、共同通信社に入社。
「犀」同人となり、「北の河」を発表。
1966年「北の河」で第54回芥川賞受賞。
1975年共同通信社を退職し、文筆に専念。
現在に至る。

＊角館にゆかりのある芥川賞作家、高井有一の足跡をたどり、数々の作品とその功績。文壇における交友。そしてふるさと角館との交流など興味深い資料を展示しております。

■問合せ:新潮社記念文学館　TEL(43)3333

「立原正秋展」終了しました。会期中、多くの皆様にご来館いただきありがとうございました。

役者絵の今昔展 ―幕末から現代―

■会期:7月11日(土)～9月13日(日)　(会期中は無休)
■会場:角館樺細工伝承館
■開館時間:午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

「暫」豊原国周

日本が世界に誇る浮世絵の中から、美人画・風景画とともに、最も多く描かれ愛されてきた役者絵の世界をお届けする展覧会です。予定展示品は、幕末期の歌川派三代豊国・国芳・芳虎・芳艶を始めとして、明治期の月岡芳年・豊原国周・鳥居清忠や、大正昭和初期に平福百穂の薫陶を受けた名取春仙の大首絵、また現代の弦屋光渓に至る諸作品からその流れを探るものであります。

折しも9月にはお祭りが控えております。曳山の人形も祭りの華やかさを伝える大切な要素の一つであります。この役者絵展がそうした伝統文化の一助になれば幸いです。

■問合せ:角館樺細工伝承館　TEL(54)1700